

くり返し人工妊娠中絶に関する一考察

国立公衆衛生院	林 謙治、佐藤龍三郎、
防衛医大産婦人科	永田一郎、古谷健一
三楽病院産婦人科	木村好秀
東海大学医学部産婦人科	牧野恒久
千葉大学医学部産婦人科	関谷宗英、関 克義、長田久夫
東京女子医大第二病院産婦人科	黒島淳子

平成6年度に行った女性を対象とした調査から特にくり返し中絶について検討を行った。

1. 年齢別くり返し中絶の状況（表）

中絶回数	0回(%)	1回(%)	2回以上(%)	計(%)
20-24歳	145(90.0)	14 (8.6)	3(1.9)	162(100.0)
25-29歳	307(86.7)	38(10.7)	9(2.5)	354(100.0)
30-34歳	286(85.4)	40(11.9)	9(2.7)	335(100.0)
35-39歳	153(77.7)	30(15.2)	14(7.1)	197(100.0)
40-44歳	124(72.5)	32(18.7)	15(8.8)	171(100.0)
45-49歳	143(72.2)	42(21.2)	13(6.6)	198(100.0)

年齢が上がるにしたがい中絶経験者が増加するが、24歳までに10%、34歳までに15%、44歳までに30%前後に達し、30代後半から急増することが分る。全体として中絶経験者は18%である。

くり返し中絶率を見るとやはり35歳を境に急増している。45歳以上ではかえってさがるが生殖能力の低下に起因しているものと思われる(表)。全年齢について平均すると24.3%であった。

中絶回数	1回	2回以上	計	くり返し中絶率 %
20-24歳	14	3	17	17.6
25-29歳	38	9	47	19.1
30-34歳	40	9	49	18.4
35-39歳	30	14	44	31.8
40-44歳	32	15	47	31.9
45-49歳	42	13	55	23.6
全年齢	196	63	259	24.3

2. 教育歴別のくり返し妊娠中絶

中絶回数	0回(%)	1回(%)	2回以上(%)	計(%)
中学	18(62.1)	6(20.7)	5(17.2)	29(100.0)
高校	257(75.4)	63(18.5)	21(6.2)	341(100.0)
専門学校	149(81.9)	21(11.5)	12(6.6)	182(100.0)
大学	227(84.0)	34(13.0)	8(3.0)	270(100.0)
大学院	371(84.9)	53(12.1)	13(3.0)	437(100.0)
その他	9(81.8)	2(18.2)	0(0.0)	11(100.0)

中絶経験は教育歴別に見ると明らかな傾向が見られる。中卒では約40%、高卒で25%、専門学校卒では20%、大学卒以上では15%程度である。

中絶回数	1回	2回以上	計	くり返し中絶率 %
中学	6	5	11	45.5
高校	63	21	84	25.0
専門学校	21	12	33	36.7
大学	35	8	43	18.6
大学院	53	13	66	19.7
その他	2	0	11	0.0
全年齢	180	59	239	24.6

くり返し中絶についても教育歴別に見てきわめて顕著である。大学卒以上では20%弱であり、中学卒では45%にもなる。ここで注意を引くのは専門学校卒は高校卒より10%以上も高いことである。前表と比較してみるとわかるように中絶経験そのものは専門学校卒は低いにもかかわらずくり返し中絶率が高いことである。このことは専門学校卒の女性におけるくり返し中絶は一部の人に集中しているものと推察される。

3. 夫の協力度とくり返し妊娠中絶

夫が避妊に協力的と答えている人の中絶経験率は20%であったが、非協力的としている人の経験率は30%であった。わからないと答えている人の経験率はその中間の25%前後であった。

中絶回数	0回(%)	1回(%)	2回以上(%)	計(%)
協力的	722(80.2)	139(15.5)	39(4.3)	900(100.0)
非協力	44(69.9)	13(20.6)	6(9.5)	63(100.0)
わからない	113(73.8)	26(17.0)	14(9.2)	153(100.0)

くり返し中絶についても夫が避妊に協力である場合は20%であり、避妊知識の不足していることも否定できないが適切な避妊手段が普及していないための限界であろう。表として示さないがコンドーム使用者937名のうち避妊に失敗して中絶となったと答えているひとは約20%であり、さらにそのうちくり返し中絶となった率は23%であったことはコンドームを主体としている現況では乗り越え難いラインかもしれない。

夫が非協力あるいはわからないの場合はさらに高く30%を超える。すなわち非協力・無関心により10-15%の上乗せとなり、教育啓蒙により予防可能のできる部分である。

中絶回数	1回	2回以上	計	くり返し中絶率 %
協力的	139	39	178	21.9
非協力	13	6	19	31.6
わからない	26	14	40	35.0



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



くり返し人工妊娠中絶に関する一考察

国立公衆衛生院	林 謙治、佐藤龍三郎、
防衛医大産婦人科	永田一郎、古谷健一
三楽病院産婦人科	木村好秀
東海大学医学部産婦人科	牧野恒久
千葉大学医学部産婦人科	関谷宗英、関 克義、長田久夫
東京女子医大第二病院産婦人科	黒島淳子

平成6年度に行った女性を対象とした調査から特にくり返し中絶について検討を行った。年齢が上がるにしたがい中絶経験者が増加するが、24歳までに10%、34歳までに15%、44歳までに30%前後に達し、30代後半から急増することが分る。全体として中絶経験者は18%である。

くり返し中絶率を見るとやはり35歳を境に急増している。45歳以上ではかえってさがすが生殖能力の低下に起因しているものと思われる(表)。全年齢について平均すると24.3%であった。

中絶経験は教育歴別に見ると明らかな傾向が見られる。中卒では約40%、高卒で25%、専門学校卒では20%、大学卒以上では15%程度である。

くり返し中絶についても教育歴別に見てきわめて顕著である。大学卒以上では20%弱であり、中学卒では45%にもなる。ここで注意を引くのは専門学校卒は高校卒より10%以上も高いことである。前表と比較してみるとわかるように中絶経験そのものは専門学校卒は低いにもかかわらずくり返し中絶率が高いことである。このことは専門学校卒の女性におけるくり返し中絶は一部の人に集中しているものと推察される。

3. 夫の協力度とくり返し妊娠中絶

夫が避妊に協力的と答えている人の中絶経験率は20%であったが、非協力的としている人の経験率は30%であった。わからないと答えている人の経験率はその中間の25%前後であった。

くり返し中絶についても夫が避妊に協力である場合は20%であり、避妊知識の不足していることも否定できないが適切な避妊手段が普及していないための限界であろう。表として示さないがコンドーム使用者937名のうち避妊に失敗して中絶となったと答えているひとは約20%であり、さらにそのうちくり返し中絶となった率は23%であったことはコンドームを主体としている現況では乗り越え難いラインかもしれない。夫が非協力あるいはわからないの場合はさらに高く30%を超える。すなわち非協力・無関心により10-15%の上乗せとなり、教育啓蒙により予防可能のできる部分である。